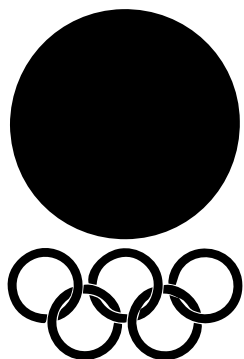




TOKYO ● 2020
APPLICANT CITY



TOKYO 1964

東京巡検

2014年 1月12日

オリンピック開催と都市の発展

—1964年から現在, そして2020年を考える—



「オリンピック開催と都市の発展—1964年から現在、そして2020年を考える—」

1. 本巡検のテーマ

2013年9月、第32回夏季オリンピック（2020年）の開催地が東京に決定した。東京は既に1964年夏季オリンピック開催を経験している。この1964年東京オリンピック開催は、敗戦を経験した日本、そして空襲にて焦土と化したホスト都市・東京の復活、成長を全世界にアピールする舞台として大きな役割を果たした。またオリンピック開催に際して東京の各都市基盤は現代的なものへと整備されたが、この「1964年」との1つの契機が現在の東京の在り様を決定づけたと言っても過言ではない。

このように華々しい思い出と共に語られる1964年東京オリンピックであるが、では、6年後の2020年に再び東京にて開催されるオリンピックは、都市・東京をどのように変貌させるのであろうか。招致時のコンセプトとして「都市の中心で開催するコンパクトな大会」を掲げてはいるが、それでもオリンピックによる東京の変化は計り知れないものとなるであろう。2020年開催のオリンピックがその後数十年と続く、東京の都市としての方向性を形作る可能性も十分に考えられる。

1964年のオリンピックは東京をどのように変化させたのか。そして2020年のオリンピックは東京をどのように変化させるのであろうか。本巡検では、過去、現在、そして未来へ、連綿と継承される都市・東京の歴史を「オリンピック」とのキーワードと共に考察する。

2. 巡検にあたって

1) 1964年東京オリンピック概要

1964年に開催された東京オリンピックは、正式名を第18回オリンピック競技大会という。アジアでの開催、有色人種国家における開催と、オリンピック史上初めての要素を含んだ開催であった。また、アフリカ諸国が植民地支配から解放されたことを背景とし、アジア・アフリカ諸国の参加が多く、当時において過去最高出場国数を記録した。また日本にとってこの開催は、戦後の復興を経て初めての国際的なイベントであった。以上より1964年開催の東京オリンピックは、国際的および国内的にみても非常に画期的な出来事であったといえる。

なお第1表、第2表において、歴代オリンピック開催国と東京オリンピックにおける日本のメダル獲得数を示す。

2) オリンピック開催の影響

東京オリンピック開催を契機に、競技施設や交通網の整備に多額の投資が行われた。またそれと共にカラーテレビ購入の急増や競技見学に際した旅行需要の増加といった消費行動の活発化等が影響し、日本経済は「オリンピック景気」と呼ばれる好景気に沸いた。

特に開催地である東京では、競技施設に加えて首都高速道路、東海道新幹線、地下鉄などの交通網や宿泊施設を始めとする様々なインフラの整備が進み、これらの殆どは現代に至るまで、改良を重ねながら利用が続けられている。

以上から、1964年東京オリンピックの開催は、戦後復興やその先高度経済成長の縮図であったと言えることが可能である。

3) 2020 年東京オリンピック

2020 年の東京オリンピック招致が成功に際し、オリンピック関係者や選手らのプレゼンテーションが話題となった。この招致活動で、日本は、「Delivery」「Celebration」「Innovation」という三つのキーワードを設定した。第一に「Delivery」では、安全・確実な大会運営を意味しており、安全な都市であることや、盤石な財政計画、国際競技大会開催経験などをアピールした。第二に「Celebration」では、首都圏 3500 万人が集まる東京で大会を行うことにより、歓迎の気持ちのあふれた素晴らしい祭典を作り上げることを強調した。最後に、「Innovation d」では、めまぐるしい変化を続ける東京での開催が、未来に向けたオリンピック・パラリンピックの継承を可能にすると意義づけた。これらのキーワードは、「Discover Tomorrow～未来（あした）をつかもう～」という招致スローガンに集約されている。

2020 年の東京オリンピックの最大の特徴は、28 の競技場が、選手村から 8km 圏内にあるということである。競技場には、1964 年の東京オリンピックで使用された歴史的な会場と、新たに建設される湾岸部の会場、東京湾岸に建設する仮設会場の 3 か所を中心に行われる予定である。

以上より、2020 年の東京オリンピックを契機に、東京の景観や都市計画などが 1964 年開催時と同様に大きく変容することが予測できる。

第 1 表 オリンピック開催年と開催地

回数	開催年	開催地	開催国	参加国 (地域)数
1	1896	アテネ	ギリシャ	14
2	1900	パリ	フランス	19
3	1904	セントルイス	アメリカ	13
4	1908	ロンドン	イギリス	22
5	1912	ストックホルム	スウェーデン	28
7	1920	アントワープ	ベルギー	29
8	1924	パリ	フランス	44
9	1928	アムステルダム	オランダ	46
10	1932	ロサンゼルス	アメリカ	37
11	1936	ベルリン	ドイツ	49
14	1948	ロンドン	イギリス	59
15	1952	ヘルシンキ	フィンランド	69
16	1956	メルボルン(馬術競技以外)	オーストラリア	67
		ストックホルム(馬術競技)	スウェーデン	29
17	1960	ローマ	イタリア	83
18	1964	東京	日本	93
19	1968	メキシコシティ	メキシコ	112
20	1972	ミュンヘン	西ドイツ	121
21	1976	モントリオール	カナダ	92
22	1980	モスクワ	ソ連	80
23	1984	ロサンゼルス	アメリカ	140
24	1988	ソウル	韓国	159
25	1992	バルセロナ	スペイン	169
26	1996	アトランタ	アメリカ	197
27	2000	シドニー	オーストラリア	199
28	2004	アテネ	ギリシャ	202
29	2008	北京	中国	204
30	2012	ロンドン	イギリス	204
31	2016	リオデジャネイロ	ブラジル	
32	2020	東京	日本	
33	2024	2017年に決定		

注1) 1916年ベルリン退会は第1次世界大戦により中止。

注2) 1940年東京・ヘルシンキ大会と1944年ロンドン大会は第2次世界大戦により中止。

(『オリンピック開催地一覧』より作成)

第 2 表 日本のメダル獲得数

回	開催年	開催都市	参加	金	銀	銅
1	1896年	アテネ	×	—	—	—
2	1900年	パリ	×	—	—	—
3	1904年	セントルイス	×	—	—	—
4	1908年	ロンドン	×	—	—	—
5	1912年	ストックホルム	○	0	0	0
6	1916年	中止 ベルリン	×	—	—	—
7	1920年	アントワープ	○	0	2	0
8	1924年	パリ	○	0	0	1
9	1928年	アムステルダム	○	2	2	1
10	1932年	ロサンゼルス	○	7	7	4
11	1936年	ベルリン	○	6	4	10
12	1940年	中止 東京	×	—	—	—
13	1944年	中止 ロンドン	×	—	—	—
14	1948年	ロンドン	×	—	—	—
15	1952年	ヘルシンキ	○	1	6	2
16	1956年	メルボルン	○	4	10	5
17	1960年	ローマ	○	4	7	7
18	1964年	東京	○	16	5	8
19	1968年	メキシコシティ	○	11	7	7
20	1972年	ミュンヘン	○	13	8	8
21	1976年		○	9	6	10
22	1980年	モスクワ	×	—	—	—
23	1984年	ロサンゼルス	○	10	8	14
24	1988年	ソウル	○	4	3	7
25	1992年	バルセロナ	○	3	8	11
26	1996年	アトランタ	○	3	6	5
27	2000年	シドニー	○	5	8	5
28	2004年	アテネ	○	16	9	12
29	2008年	北京	○	9	6	10
30	2012年	ロンドン	○	7	14	17
31	2016年	リオデジャネイロ				
32	2020年	東京				

(『PRIVATE LIFE エンタメ&データランキング』

より作成)

3. 本巡検における考察

東京オリンピックが関わった場所は大きく分けて 2 種類ある。一つは会場をはじめとした整備が行われた場所であり、もう一つはオリンピック開催の影響を受け変化を遂げた場所である。

前者については、会場の建設が行われた明治神宮に隣接する代々木公園、神宮外苑、駒沢公園が中心となっている。当時の日本は水泳競技場を重要拠点と目しており、米軍に接収されていた土地にあるワ

シントンハイツ跡地という好立地に代々木競技場を建設し、この代々木競技場に並ぶ重要拠点であり、メインシンボルには神宮外苑地区にあった国立競技場を選定した。これらの会場建設に加え、東京モノレール羽田線、東海道新幹線、道路では首都高速道路 1 号線や環状 7 号線、六本木通りとその周辺が整備された。

一方、後者については、渋谷・表参道において農村風景から近代的な商業エリアへと大きな変化が起きており、原宿ではコープオリンピアをはじめとした高級マンションが登場し、住環境や文化においてトレンドを生み出す最先端の場所として成長を遂げた。

こうした 1964 年の東京オリンピックの影響を踏まえ、2020 年の東京オリンピックについても同様のことが期待される。すでにメイン会場は、国立競技場跡地に建設予定の新国立競技場に決定しており、こうした都心部の再開発と、臨海部の整備に注目が集まっている。

以上より、本巡検では代々木、原宿・表参道、神宮外苑、六本木を対象として選出し、「オリンピック」との視点から観察を行うことで都市・東京の在り様を考察する。